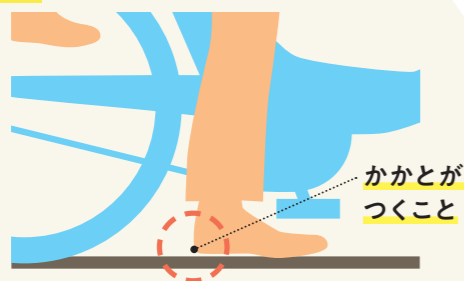


子ども乗せ自転車4つの基本

1 サドルの高さを しっかり調整しよう



子ども乗せ自転車の場合、つま先だけでなく両足のかかとまで地面につくように、サドルの高さを合わせましょう。こうすれば、もし倒れそうになったときに踏ん張れます。女性の場合、ヒールは避けた方が安心です。

2 ヘルメットは しっかりかぶらせよう



自転車の車体は、走行中も停止中も転倒する可能性があります。ヘルメットは、万が一転倒したときに子どもの頭を守る最後の砦。必ずかぶらせましょう。まっすぐ水平にかぶらせたら、あごひもをきっちり留めます。

3 万が一のために 自転車損害保険に入ろう



自転車の事故は、自分が事故に遭うだけでなく、他の人にけがをさせてしまう場合もあります。「自分だけは絶対大丈夫」なんて思わずに、万が一に備えて自転車損害保険に入っておきましょう。

4 タイヤの空気入れを 用意しておこう



タイヤの空気はいつも十分に入れておくようにしましょう。空気がちゃんと入っているとパンクしにくくなり、乗ったときにフラフラしにくくなります。空気入れを用意しておくと、自宅でもすぐに空気を入れられて便利です。

安全第一の子ども乗せ自転車 ポイントを改めておさらい

自転車レーン等を多くの道路に整備しているさいたま市。子どものお出かけに、子ども乗せ自転車を利用する方も多いと思います。そこで、安全に乗るための注意点を改めておさらいしていきましょう。

乗せ降ろしの正しい3STEP

乗せるとき

- 1 平らな場所で スタンドを立てる
- 2 乗せる前に ヘルメットをつける
- 3 子どもを 抱っこして乗せる

降ろすとき

- 1 平らな場所で スタンドを立てる
- 2 子どもを抱っこして 降ろす
- 3 ヘルメットは 一番最後に外す

事故を防ぐための 3つの注意点

1 子どもを抱っこしたまま 自転車に乗るのは絶対に禁止

4歳未満なら、おんぶ紐でおんぶしたまま自転車に乗ることはできるが、抱っこは禁止。また、チャイルドシートに乗せられるのは未就学児。



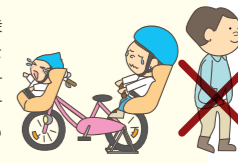
2 押し歩きの際には、サドル を腰に当てて3点で支える

押し歩きの際「3点」で支えよう。ハンドルを両手で持ち、車体を自分の方に少し傾けてサドルに腰を当てて支えると安定する。



3 子どもを自転車に乗せた まま自転車を離れない

自転車に子どもを乗せたまま、その場を離れるのは危険。子どもを自転車に乗せているときには目も手も離さないこと。



サポーター認定・登録した ママたちの声



酒井郁子さん

「平日は下の子2人を前後に乗せてスーパーなどへ行くことが多いのですが、電動自転車なら、買い物した荷物+子ども2人を乗せてもスイスイこげます。我が家では電動自転車を2台使っていて、週末には家族みんなで遠くの公園に遠征したり、今まで知らなかった道を走ってみたりして楽しんでいます。自転車安全講習を受けてみると、交通ルールは知っているつもりでしたが、意外と初めて知ることもあり、とても良い機会になりました」



河村優子さん

「0歳～4歳の3人の子どもがいます。普段は0歳の子をおんぶして、上の子のどちらかを後ろに乗せることが多いのですが、電動アシスト自転車だと、こぎ出しや坂道、重い荷物をカゴに入れたときなどにも安定感があります。また、小回りが利くので、ちょっと遠い場所でも、車と同じくらいの時間で着いてしまうことも。今回自転車安全講習を受けたことで、改めて自転車の危険性を知ることができ、今まで以上に交通ルールを意識するようになりました」

選び方からルールまでをまとめた ハンドブックをご活用ください



今後の事業については
ホームページをご覧ください

子育て世代を対象に、自転車の安全利用や自転車活用の促進活動に協力いただく「自転車安全推進サポーター」。市内在住で1歳以上かつ小学校就学の始期までの期間が1年以上ある幼児が2人以上いる方が対象です。サポーターに認定された方には、自転車安全講習会の受講後に3人乗り電動アシスト付自転車購入費の2分の1(上限30,000円)を市が補助。さらに子ども用ヘルメットの進呈も。自転車安全講習会の受講やアンケート、SNSを利用した自転車安全啓発など市の活動にもご協力いただきます。

⇒詳細については自転車まちづくり推進課(☎048-829-1398 ☎048-829-1979)まで。

パパ・ママ 自転車安全推進 サポーター事業とは